

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570209015		
法人名	有限会社ケアサービスおちあい		
事業所名	グループホームおちあい		
所在地	秋田県能代市落合字上釜谷地187-2		
自己評価作成日	平成28年11月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成28年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・当施設では、協力医療機関の医師による訪問診療、訪問看護事業所との連携を整えております。近隣には総合病院もあり、緊急時には迅速に対応出来ています。近隣には商店街やスーパー、日常的に買い物や散歩等、外出しやすい条件が整っています。入居者様、ご家族様、職員が一緒に楽しめる行事を企画し、より深い絆を築くことが出来るよう努力しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者・職員が一つの「家族」として、まるで「家」にいるような雰囲気でありたいと願い運営しており、利用者の穏やかで明るい笑顔が印象的なホームである。 管理者の交替に際し、前管理者を副管理者として配置し、後進育成・円滑な運営移行を進めるなど組織としての計画性やガバナンスが感じられた。担当制による利用者支援としており、本人の希望や想い、心身状況の変化を月1回のモニタリングで整理し、介護計画に反映する流れが整っている。 近隣に総合病院があり、協力医療機関による往診や訪問看護など医療連携体制が充実している点も魅力である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員一人ひとりが理解し、現状と比較しながら見つめ直すことを意識し、実践につなげています。	運営理念は、目につきやすい仕様で玄関に表示されており、職員が日常的に意識できるよう工夫されている。創業時からの理念であり、今後もホームの柱として心に留め支援に当たる方針を確認した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所に買物に出掛けるときや、またホーム内や畑から顔が見えた時など、声掛けや挨拶による交流を図っています。	ボランティアの受入れや、近隣にある系列事業所(有料老人ホーム彩べえ)との交流実績がある。地域住民とは、散歩時の挨拶・声掛けなどの交流に留まるが、更に進めていく方針である。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地元の養護学校に招待されたり、舞踊会などホームに招待しています。運営推進委員会を通じ、認知症の理解や支援について話し合いを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所職員、地域住民、利用者の家族、管理者、ケアマネで構成され、二ヶ月に一度、運営推進委員会を開催し、近況報告や地域性を含んだ話し合いを行っています。	2か月に1回の割合で実施している。メンバーはほぼ固定しており、ホームの役割や事情を理解したうえで、運営状況について話し合い、意見交換や必要な助言をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者がいますので、市役所の関係職員と話し合い、助言等頂いています。また各種手続きに関する事等、関係職員に相談し、話し合うことで協力関係を築いています。	市役所の福祉担当が窓口となり、介護保険制度のみならず、保健・生活・防災等に関する様々な行政情報の提供がある。運営推進会議のメンバーとしても参加してもらい、ホーム運営について助言をいただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを目標にしているが、入居者様の安全の為、止むを得ず施錠する時があります。入居者様のご希望に添って、職員同伴にて外出しています。	身体拘束や虐待防止に関するマニュアルや必要な書類・様式を整備し、外部研修への参加と伝達研修を実施している。ホーム内4カ所に防犯カメラを設置して、ホーム内の様子を代表者や管理者が把握・確認する態勢も整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で注意しあい、虐待におこりうる環境に至らないよう努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について研修等で学んでいます。必要関係機関と話し合い、活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項の説明には十分時間をかけて、理解納得の上での契約としています。また、質問・疑問等があった場合には、迅速に回答できるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から利用者様とコミュニケーションを図り、要望があった時には可能な限り対応しています。家族の面会や月に一度のお手紙にて現状報告を行っており、気軽に相談できる雰囲気作りを心掛けています。その際、利用者様やご家族様からご要望があった場合、会議等を通して反映させています。	家族等のご意見・ご要望は面会時や電話で伺っている。内容は記録にとり、会議で職員の意見を出し合いながら介護計画の策定と実施に繋げるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、職員の意見等を運営に反映させています。	職員が意見を出しやすい雰囲気があり、管理者を通じて代表者に伝えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の役割・責任を明確にし協力し合うことでやりがいを持てる環境づくりに努め、技術の向上を目指しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の場合は、職員の状況の応じて定期的に参加する仕組みを構築しています。内部研修としてレポート作成等の研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の市町村で昔から付き合いのある同業者との交流を図り、現状の問題点などを話し合いながら、サービスの質と意識の向上につなげています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の事前調査・面接時に、ご本人が不安を感じないように配慮しています。ご本人に寄り添いながら傾聴を重視した援助を行うようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に必要な情報を伺った上で援助内容を決めて確認を行います。入所後は、情報交換を密に行い、信頼関係が構築できるように努力しています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	能力の応じて家事をお願いするなどをして、共同で生活が出来るように努めています。出来たことを共に喜び合えるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には病院受診や行事への参加をお願いしたり、面会時にはご本人が希望する場所で過ごしてもらっています。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来るだけ馴染みのある物や家具を持って来て頂いています。また、面会・外出等で馴染みの方や場所との関係も保たれています。	利用者は地元出身の方が多く、買い物や通院の途中に馴染みの場所への立ち寄りを希望されることがあり、都度対応している。家族や友人の面会時には、ホーム内で共に過ごしていただく時間を大事にしている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気のあった仲間同士の交流設定、孤立しやすい入居者様には職員が入り、支え合えるような支援をします。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族への連絡を取り、近況を伺ったり、必要に応じて支援できる体制を構築しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望や訴えを、職員会議で話し合い職員全員で共有しています。場合によってはご家族にも相談や協力を頂いています。	職員は、利用者の話を良く聴いて対応するよう努めている。入浴介助や調理作業の場面では、意思確認にあたり、具体的に伝えられるような質問や、いくつかの選択肢を与える工夫が見える。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴やサービス利用状況等をご本人やご家族、また関係者から情報収集し、ご本人の生きがいや趣味などの把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護記録に気付いた事を記録し状態の把握に努めています。毎日に申し送りやカンファレンスで気付いたことも話し合っています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活状況や会話の中からニーズを拾い上げ、必要に応じて、または定期的にモニタリングを行い情報収集しています。それを元にご家族や関係者と話し合っケアプランに反映します。	担当制を採っており、担当者が年2回のアセスメント、毎月のモニタリングを行い、計画担当者がかかりつけ医や医療連携の訪問看護師(系列事業所所属)の助言を得ながら介護計画の作成に繋げている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有できるよう、連絡ノート、カンファレンスノートに記録し、ケアプランの見直しに活かしています。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ等を積極的に行い、入居者様が生きがいを感じられる支援を行っています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族が希望すれば、協力医療機関による隔週の訪問診療と特変時には連絡することで臨時往診があります。また、かかりつけの病院へ定期的を受診される方もいます。	かかりつけ医は利用者毎に異なり、通院は職員が担当し、結果は家族にその都度報告している。協力医療機関の医師の定期的な往診や、医療連携の訪問看護師との必要な情報交換がなされている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	系列の訪問看護による医療連携を行っている為、個々の状態を伝え必要な援助が受けられる体制を整えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院等あった場合、ご本人・ご家族との面会を行います。身体状況の把握に努め、病院の関係者のご家族と今後について話し合いを行い支援しています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様が重度化しホームの生活が困難になった場合は、ご本人・ご家族・主治医と話し合い最善の方法がとらえられる様に支援しています。入居契約時に、ホームで対応できる部分をしっかりと説明しています。	看取りは実施を前提としており、ホームで対応できる部分を事前に家族へ説明している。必要な手順書や家族の同意書などを整備しており、協力医療機関の理解も得ている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応の基本として、事故対応マニュアルがあり、常に職員が見られるようにしています。また、研修等を行い再確認もしています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の他、運営推進委員会で協力をお願いしています。	年2回の消防訓練を実施し、緊急時のマニュアルや連絡網も整備している。地域住民の協力体制づくり、消防訓練への参加等の充実が期待される。	近隣の系列事業所と力を合わせ、地域住民への案内・情報提供及びアピールを高め、理解と協力体制に繋げて欲しい。また、地域の避難場所などホームの公共的役割にも取り組んで欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様への声掛けは「さん」付けを基本としています。馴れ合い的な言葉は使わないように心掛けています。	身だしなみに配慮し、整容に乱れなどが無いよう、さり気ない声掛けや手伝いに努めている。「家族」のようなホームでありたいという想いや願いを職員が共有しており、利用者の気持ちを大事にしている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々ゆっくりと話をしながら思いや希望を聞き出すようにしています。自己決定について、どんな小さなことでもご自分で決められるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中で最低限のルールはあるが、出来るだけ個々のペースに合わせて生活を送れるように支援しています。レクリエーションでもその日の気分や体調を考慮した声掛けをしています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの理容・美容院行っています。訪問理容を利用している方もいます。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事手伝いが出来る方には調理や後片付けに参加していただいています。簡単な作業や味付け等、食事が楽しみに出来るよう工夫しています。	調理や片付けができる利用者に手伝っていたり、会話も楽しんでいる。台所・調理具・冷蔵庫等は適切に消毒・清掃し、衛生的で安全な食事提供を行っている。食事は栄養のバランスに配慮しており、柔らかく食べやすい調理や色取りにも工夫が見られた。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録をつけて状況把握に努めています。食べやすい形態にしたり、好きな飲み物や柔らかい食べ物を出したり、栄養・水分が十分摂取出来るよう工夫しています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの声掛けを行い、誘導しています。出来ない方には職員が付き添い誘導し援助を行っています。義歯は洗浄剤で消毒しています。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、個々の排泄パターンの把握に努めています。時間や習慣を把握、トイレ誘導を行いトイレでの排泄を支援しています。	排泄チェック表を用いて毎日チェック。個々の排泄パターンを把握し、タイミングを見ながらさり気なく声を掛けるなど排泄支援に努めている。夜間は居室のポータブルトイレを使用する利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に基づき便秘の日数を把握し、毎日牛乳・ヤクルトを交互に飲んでます。水分補給や食事内容にも気を配り、自然排泄ができるように支援しています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に確認を取り、健康状態や希望に合わせて入浴しています。	入浴日は週2回としているが、希望があれば他の日も利用できる。入浴日以外は、清拭・足浴で対応している。浴室には数枚の風景写真が飾られ、入浴しながら職員と会話を楽しむ材料として活用している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、ラジオ体操・レクリエーション等を行い積極的に過ごせるよう援助することで安眠につなげている。歌番組を楽しみに遅くまで見られる方もおりますが視聴後は満足されて眠られています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書があり、職員がいつでも確認出来るようになっていました。お薬手帳も個々に分けております。全職員がお薬の知識を深め、服薬後の様子観察をしています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合った役割、掃除・配膳・洗濯物畳みを行って頂き、自信に満ちた日々を過ごせる様に支援しています。また、日々の楽しみとなるような嗜好品の準備を心掛けています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間の行事に外出する行事を取り入れております。ご家族と一緒に買い物、ドライブ・散歩に出かけられる様に支援しています。	ホームの所有車両は軽自動車1台であるが、近隣の系列事業所の車両を使用することができるので、事業計画に掲げる外出計画を楽しむことができる。何かのきっかけで、帰宅や外出の願望を示す利用者もいるが、想いを受け止めながら、寄り添って見守ることとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームでは金銭管理を行わない事にしてはいますが、自己管理出来ない人にはご本人・ご家族と相談の上預かり金としてホームで管理しています。管理出来る人は、小銭程度位持って頂いています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話やご本人の希望による電話等を必要に応じて支援しています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をして清潔を心掛けています。家庭的な雰囲気心掛け、ソファや椅子を配置しています。玄関先にはベンチ・テーブル等があり、外気浴を兼ねお茶の時間を設けたりしています。	館内は清掃が行き届き清潔が保たれ、温度や湿度も適正に管理されていた。居間にはテーブルやソファが程よい間隔で配置されており、ギターや笛を演奏できる職員が共に過ごす時間を豊かにしてくれる。玄関の軒下はテラス風のスペースで、季節の風を感じながらお茶や会話を楽しめる。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファやテーブルを配置し、気のあった仲間同士が安心して過ごせる居場所を提供しています。また、ホール内でも一人になれる空間をご用意しています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた大切な物、家具等を持って来て頂き、安心して生活が出来るようにしています。ご本人が使いやすいように家具等の配置を行っています。	床はフローリング仕様で、ホームが用意しているベッド・クローゼット・カラーBOXを配置しても空間には余裕がある。使い慣れた家具やお気に入りの私物を持ち込み、レイアウトを楽しむことができる。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には手作りの工作物を飾り各居室が分かる様にしています。トイレ等の場所がわかるように白線を引いたり、必要な場所にて手すりをつけて工夫しています。		